

特集コーナー

【蜂刺され災害防止対策】

山野における災害の現状

職員厚生課



我が国において、蜂に刺されて死亡する災害は、毎年約三十件発生している中、国有林野事業では、「蜂刺され災害防止対策」の通達を定め、蜂刺されによる労働災害の防止に万全を期すため、様々な取組を行っています。その取組の中から一例として自動注射器等について紹介します。

自動注射器の交付については、蜂の生息する現場の業務に従事する職員のうち、重篤症状経験者、強いショック症状が予想される者及びこれ以外の者であっても本人がショック症状について危惧する等により自動注射器の交付を希望する職員を対象に、産業医でもあるエピペン処方医がアナフィラキシー（急性の全身性アレルギー）の既往歴、生活環境等について十分な問診を実施し、自動注射器を処方する必要があると判断した職員に交付しています。

また、自動注射器の交付を受ける職員に対し、使用方法等について熟知を図り、被災時に迅速かつ適切に使用できるよう指導するとともに、紛失や他人による使用ま

た誤使用による事故防止等、その安全を確保するための安全教育を実施しています。一方、産業医に対し、職員が蜂に刺された場合のエピネフリンの注射等の使用方法の指導についても併せて要請しています。

使用に当たっては、自動注射器の交付を受けた職員が蜂に刺された場合、症状の変化に迅速やかに使用できる体制を整え、「中程度以上（めまい、動悸、嘔吐等の症状）」のショック症状が現れたと判断した場合に自己注射し、「軽いショック症状（発汗、吐き気等の症状）」の場合は自己注射しないことを徹底しています。自動注射器は、アナフィラキシー発現時の補助治療剤であることを十

分認識し、自動注射器使用後は、必ず医師の適切な治療を受けることを徹底しています。

自動注射器は、蜂毒によるアナフィラキシーが発現した際の補助治療として、エピネフリンが充填されているものです。エピネフリンはアドレナリンとも言われ、交感神経を興奮させる作用があり、形は、注射針一体型で、薬液（エピネフリン）部分と安全キャップ等がセットされ、携帯等の遮光ケースに収められ、注射針は内臓されていて外からは見え、安全キャップを外さない限り針は飛び出さない構造となっています。

自己注射する場合は、座った状態または横になった状態で太ももの前外側に垂直になるように、黒い先端を十秒程度、強く押しつけ、筋肉投与となります。その後、ま



自動注射器と携帯用ケース

数秒間もむこと。保管については、エピネフリンは、光で分解しやすいため、携帯用ケースに収められた状態で、常温が確保できる場所で保管する。なお、使用した場合は、刺されてからの症状変化や注射後の経過について必ず報告を受けることとしています。

東北森林管理局における、月別発生状況の過去五年間における管内の蜂刺され災害は、百四十一件発生し、各年度ごとには二十三日三十六件で、時期的には、八月をピークに七月から九月で約九十%以上を占めています。

また、防蜂網・防蜂手袋・救急薬品（蜂毒吸引器、抗ヒスタミン剤軟こう・スプレー式殺虫剤等）を備付けるとともに、六月頃から蜂の危険期を向かえることに備え、女王蜂が巣作りを開始する前に女王蜂を捕獲する目的で、五月頃から、各現場において誘因捕殺器（ペットボトルを使用し、酒・砂糖・酢を混ぜ合わせたもの）を設置するなど、蜂刺され災害防止対策に、職員一丸となって取り組んでいます。



木の香るまち大館市

秋田県大館市産業部農林課

私有林を行政が間伐

【大館市森林整備事業について】
【趣旨】

素材生産者の生活向上と林業・木材産業の活性化を図るため、私有林の初回間伐を市の事業として行う。

【採択要件】

- ① 個人所有のスギ人工林
- ② 四〜六齢級の未間伐林
- ③ 面積〇・一H A〜五・〇H A

① 事業費の一割負担

② 森林国営保険への加入

【大館市森林整備公社について】

【設立目的】

事業開始年に、申請受付、申請箇所の調査・測量、市への採択申請、施業後の確認、経営指導等を行うため、旧営林署OB五名を採し設立した。



私有林の間伐促進を図るための公社を設立

【事業の成果と今後の課題】

平成十九年度末までの十五年間で、延千百十一人の私有林千三百九十箇所、七百七十四H Aについて初回間伐を実施しました。立木の生育促進及び林分の健全化並びに利用価値の向上を図るには、伐期林齢に至るまでの間に数回の間伐が必要ですが、ともすれば当事業の初回間伐のみのも所もあり、保育及び経営指導が今後の課題です。

だじゃく軍団もどき祭り

おらほのタケノコ

本市の国有林野内に設定していただいている普通共用林野で、特に西部に位置する田代地区の共用林野からは、通称「根曲がりタケノコ」と呼ばれる美味しいタケノコが取れます。この特用林産物を目玉に、毎年、タケノコ祭りを開催し、市民等の楽しみとなっています。

【タケノコ祭りに人・ひと・ひと】

第二十一回だけのご祭りは、平成十九年六月十日（日）に開催しました。当日は、晴天に恵まれた他、当県で絶大の人気を誇る超人ネイガーも登場するとあって、老若男女約六千五百人が来場しました。



タケノコ皮むき競争や超人ネイガーショーも開催



大好評のタケノコ汁

地元婦人会等は、自慢の漬物や缶詰の露店を開くほか、大釜でのタケノコ汁を販売、味は絶品！

一度、食べに来てたんせ。

本市は、民謡秋田音頭で「能代春慶、檜山納豆、大館曲げわっぱ」と歌われているように、古くから林業・木材産業と鋳業で栄えてきた都市です。北を青森県と接する秋田県の最北部に位置し、周囲を山々に囲まれ、中央に平坦な大館盆地が広がる比較的穏やかな気候の土地でもあります。

森林面積が行政面積の七九%を占める本市は、新大館市総合計画（平成十八年四月策定）においても、林業・木材産業の活性化が主要な柱となっています。加えて地球温暖化防止策としての間伐促進が僅々の課題であることから、本市が平成五年から行っている独自事業を紹介します。

ボランティアと共に 自然林の再生を目指す！！

津軽白神森林環境保全ふれあいセンター

平成十八年四月、林野庁の全国
第一番目の「津軽白神森林環境
保全ふれあいセンター」が鱒ヶ沢
町に新たに設置され、地元自治体
やボランティア団体等に支えら
れ、職員四名で、自然再生活動や
森林環境教育及びモニタリング調
査並びに白神山巡視活動の支援
に取り組む二年が経過しました。
昨年九月には、学識経験者、自
治体等の有識者、ボランティア団

体等の委員十三名による「白神山
地周辺の森林と人の共生活動に
関する協議会」が設置され、今後、
ふれあいセンターが取り組む課題
等について、森林管理局長に提言
をしていただくこととしています。
なかでも、保護地域周辺の自然
林の再生については、再生活動の
指針となる「自然再生マップ」の
作成に取り組むことが確認されて
います。

ボランティア団体による自然再
生活動は、最初に日本山岳会が平
成十一年から奥赤石で二泊三日の
テント泊により始まって、翌年以
降日本ユネスコ協会や白神山地を
守る会、地元赤石川を守る会等が
続々と参加して、現在では十団体
を越え延べ千人以上の一般市民が
ブナ他の植樹やスギ人工林の除伐
等の手入れ作業に汗を流して元の
自然林再生作業に取り組んでくれ



鱒ヶ沢町・白神山地を守る会
「ブナフェスティバルin赤石川」

ています。

津軽森林
管理署は、
平成十七年
から「ボラ
ンティア団
体との意見
交換会」を
開催して、
署が作成し



日本ユネスコ協会「岩木山植樹祭」

た「体験林業実施要領」の定着と
安全対策に努めてきました。
この意見交換会をきっかけに、
団体同士の連携も年々強まってき
ていて、お互いのイベント開催で
は交流支援が活発に行われていま
す。
制を取ることで、植樹会等のイベ
ントを開催してきています。
今年も、これまで以上に企業の
支援金による大規模な植樹会が予
定されていて、実施回数も増え、
五ヶ年に亘って植樹が実施される
計画もあることから、津軽署・金
木支署と共に、ボランティア団体
とは、これまで以上に連携を保つ
てイベントの開催に努めて参ります。

このような状況を背景に、当ふ
れあいセンターは、開所以来津軽
署・金木支署と連携しながら、ボ
ランティア団体の技術指導等に取
り組んできました。

地元の学校から体験学習の相談
が持ち込まれても、当職員四人で
は受け入れに問題がありましたた
が、ボランティア団体と一緒に実
施することで対応を可能にして参
りました。

また、企業等の支援金拠出に当
たつては、ふれあいセンターが窓
口になって、ボランティア団体と
連携して、団体同士の支援協力体

なかでも、ボランティア協定を
締結している三陸森の会（国有林
OB会）の存在意義は大きく、も
っぱら職員と共に、一般市民に対
する技術指導を実施していただい
ております。

自然再生活動は、長い年月を要
する取り組みとなりますが、ふれ
あいセンターが窓口となって、N
PO等ボ
ランティア
ア団体と
一緒にな
り、美し
い森林づ
くりのた
め、職員
一丸とな
って邁進
して参り
ます。

赤石川を守る会「MOTTAINAIキッズ植樹会」



赤石川を守る会「MOTTAINAIキッズ植樹会」

【森のお話】

…コラム…

カラマツでも全くの異邦人

▲蔵王馬ノ神岳に自生するカラマツ

「クローン(分身)を調べてわかったこと」

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場 半田 孝俊

宮城県蔵王山系馬ノ神岳に自生するカラマツは北限でありかつ隔離分布すること知られ(図-1)、一九九四年七月に現地で開催された第一回林木遺伝育種セミナーで多面的な検討がなされました。以降森林管理局の主催で現地保存の検討会が行われ、種子の採取、現地での更新のための地表処理(天然下種更新区の設定)などが行われ、毎年モニタリングを行っています。



図-1 カラマツの天然分布 ●が馬ノ神岳

馬ノ神岳に自生する

カラマツの現状

自生地は馬ノ神岳山頂から東へ

稜線を三百mほど下った標高千三百九十〜千四百八十mの箇所です。一九三二年胸高直径六cm以上の個体が三十本生育していました。一九六九年十六本、一九七六年十五本、一九九〇年十二本、二〇〇〇年十一本となり現在に至っていません。現地の個体は一九六九年から同じ番号で調査していますが胸高直径は三十八年間で平均2cmしか増えていません。二〇〇〇年に枯死した一号木は樹体が仙台森林管理署の事務室内にガラスケースに収められ保存・展示されています(写真-1)。胸高直径十三cmでしたが心材部で百十年輪が数えられました。

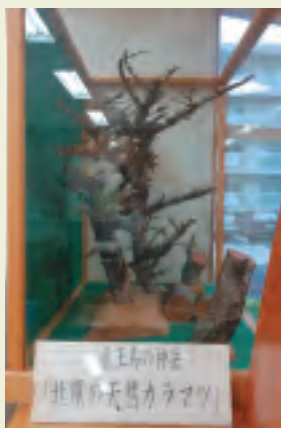


写真-1 仙台森林管理署に展示されている1号木の樹体

クローンを調べてわかったこと

馬ノ神岳に自生している五号木(写真-2)は樹高三三m胸高直径三十二cmで強風に耐えて生育しているため枝が太くねじれています。樹齢は四百年程度と推定されています。一九七六年に自生する十五本から穂をとってきて、つぎ木をして増やして(親の分身いわゆるクローンです)一九八〇年に東北育種場内に植栽しました。写真-3は五号木のクローンです。平均樹高六・九m、胸高直径八・六cmで、一般のカラマツと比較して半分から三分の一の成長です。場内に植栽したクローンを調べて

- (1) 開葉時期が遅く、葉は緑が濃く、黄葉・落葉時期が早い
- (2) 枝が鋭角につく
- (3) 長枝が少なく、成長が遅い

ことが遺伝的な特徴であることがわかりました。

一九九五年は全国的なカラマツの豊作年で、自生地の十二個体から球果を採取しました。苗を育成し二〇〇一年に七個体の子供三百九本を自生地の北四・四kmの蔵王エコーライン近くの倉石岳国有林三〇四い一林小班に二〇〇一年五月に植栽しました。面積〇・一七ha、海抜は千二百四十mですが、周辺のカラマツ造林地は海拔千m以下です。スキー場の駐車場跡で平地ですが、表層土壌が除かれ、火山噴出物を母材とする未熟土となつて

います。平均樹高は一・二mで土壌条件と雪害により生育に大きな差があり、道路に近い箇所では樹高が三m前後となっています(写真-4)。高海拔地で風が強く、土壌の未発達な地域に適応して生存してきた特異な遺伝子型を保有していると考えられ、交配により新しい品種を創ることを計画しています。



写真-2 5号木の本体



写真-3 5号木のクローン



写真-4 成長の良い3号木のの子供



企画調整室

民有林・国有林の連携を強化

〔秋田県との林政連絡会を開催〕

東北森林管理局では、「美しい森林づくり」の推進に向け、民有林・国有林の施策の一層の連携を図るため、昨年度より管内各県との林政連絡会を開催しており、四月十八日に今年度初めての連絡会



三重野室長からの局重点取組の説明

を開催しました。



活発な意見交換が行われました

秋田県からは、農林水産部森林技監兼次長を始め林政担当幹部が、東北森林管理局からは局長、計画部長、森林整備部長のほか事業担当課長が出席し、局からは美しい森林づくりや国産材の安定供給、今年度の主要事業量、県からは、県民との協働による森林づくりの推進や、林業の活性化、秋田スギの利用促進など重点施策について説明が行われました。次いで行われた意見交換では、局で行われている列状間伐やシステム販売、県の「秋田県水と緑の森づくり税」による針広混交林化事業、秋田スギの利用促進を図る上での住宅政策との連携の必要性等について活発な意見交換が行われました。特に治山事業や災害復旧、松くい虫・ナラ枯れ対策について、民国連携の重要性が再認識されま

総務課

緑の大切さアピール

〔緑の募金街頭キャンペーン〕

第五十九回全国植樹祭まで五日となった四月二十六日、県民の



募金への協力者へ花の苗をプレゼントする河野局長

した。また、六月十五日に秋田県で開催される「第五十九回全国植樹祭」にむけて、局主催のイベントでも全国植樹祭のPR等、一層の協力を示すべく考えが示されました。今後とも「美しい森林づくり」の推進に向け、民国の施策の連携を一層進めていくことが重要であることを確認し、会議を終了しました。他県との林政連絡会も順次開催していく予定です。

緑化意識の高揚と緑の募金運動への参加を促すため、春期「緑の募金強化月間」（四月十日～五月三十一日）を設定し、「緑の募金街頭キャンペーン」が秋田県緑化推進委員会及び秋田市緑化推進委員会の主催で開催されました。晴れた土曜日の秋田駅前「アゴラ広場」中央会場には、大勢の緑化関係者等が出席して開始式が行われました。河野局長と高倉指導普及課長は開始式後、秋田駅前ポポロードに移動し、緑の少年団の皆さんと一緒に「みどりの募金お願いします。」と元気な声を出しながら募金への協力を呼びかけ、行き交う市民に花の苗木をプレゼントしました。

下北森林管理署

人命救助で感謝状の贈呈

当署易国間森林事務所基幹作業職員の坂本長幸さんに大間警察署から感謝状が贈られました。

漁港の岸壁から女性がミニバイクごと海に落ちるのを目撃した坂本さんは、直ぐに海に飛び込み救助にあたりました。その活躍が評価され、感謝状が贈られることとなりました。贈呈式では大間警察署長から「あと少し遅ければ大変

だった。躊躇せず咄嗟の判断でよく動いてくれた」とお礼の言葉をいただき、坂本さんは「無我夢中で飛び込んだ。幸い天気が良かったのであまり寒いとは感じなかった。泳いだのは三十年ぶりくらい」と笑いながら感想を述べました。



大間警察署から感謝状を受け取る坂本さん

由利森林管理署

五年の時を刻んだボランティアによる松くい虫被害林の再生植樹

四月十二日（土）、水林海岸防備林を松くい虫から再生する会（山田多喜夫会長他会員）及び一般参加者等総勢六十二名参加の下、松くい虫被害林の再生春期植樹会が水林国有林において実施さ



松林の再生を願いクロマツの植樹をしました

れきました。前夜から降り続いた雨も開会時にはあがり、絶好の植樹日よりとなりました。植樹指導後、参加者は鍬やスコップにより慣れた手つきで〇・二haの面積にクロマツ一千本を植え付けていきました。参加者は、「再生した松林を子供達にみせてやりたい。」や「ボランティアではあるが、市民に喜んでもらえる活動ができてよかつ



春季植樹祭に集まった皆さん

た。」等の感想が寄せられました。水林海岸林の再生植樹は水林海岸防備林を松くい虫から再生する会が中心となり、由利地域振興局や由利森林管理署が連携支援の下、平成十六年から毎年実施しているものです。今後においても取り組みが更に地域に根付いたものとなるように、国有林のフィードバック等支援をしていくこととしております。

米代西部森林管理署

フォレストボランティア 打合せ会議を実施

四月二十五日（金）米代西部森林管理署において、平成二十年度の「フォレストボランティア打合せ会議」を実施しました。

登録しているボランティアは署OBを中心として三十五名で、それぞれの居住している地域を主な活動区域として、国有林内の巡視やクリンアップを実施しています。

特に能代市の「風の松原」では、ほぼ毎日のように巡視活動などを実施して頂いています。

会議に先立ち署長から、日頃の地道な巡視活動に対する感謝と、

風の松原での整備状況など、署の取組について紹介を行いました。その後、平成十九年度の活動状況について、写真や局広報、新聞記事を添付して紹介し、次に平成二十年度の活動計画について提案しました。出席者からは、「署で計画した事については協力するので遠慮なく声をかけて欲しい。」と力強い言葉を頂きました。また、出席者から「松原でのクリンアップ対象箇所を広げて欲しい」や「松くい虫の研修会を実施出来ないか」との要望が出され、今後検討していくこととなりました。



本年度の活動計画について話し合った打ち合わせ会議



今年も椎茸ミニほだ木プレゼントには長蛇の列ができました

最上支署

真室川梅まつり

今年度は、例年になく暖かく消雪も早まっていることから、特に山火事防止の呼びかけを積極的に行ってほしいとの話をして会議を終りました。

ゴールデンウィークの初日である四月二十六日から第三十六回の真室川梅まつりが五分咲きの梅林公園で開催されました。
この梅まつりに対して当署では、初日の午前十時から、植菌済みの「椎茸ミニほだ木」のプレゼント

ントを実施しました。
このほだ木プレゼントは、参加者から大好評を得ており主催者の強い要望を受けて毎年実施しています。
今年も、会場には時間前から長蛇の列ができていました。
子供連れの参加者が多かったのですが、子供にも細めのほだ木をプレゼントしたところ、ほだ木を両手で大切そうに抱えている様子など会場には微笑ましい光景が見られました。
当署の職員が一本一本心をこめて制作したミニほだ木が、地域住民と国有林とを結ぶ絆になつて欲しいと願っています。

東北森林管理局

1階ロビーのご案内(5月)

・ミニギャラリー

秋田四季の野鳥 写真展
秋田市 続 克明・十美子

・PRコーナー

山野における災害の現状
(蜂刺され災害防止対策)
職員厚生課

イベント情報

イベント名 「初夏の花の湿原で植物・野鳥観察と自然の造形美を巡る」

期 日 平成20年6月14日(土)
実施場所 青森県つがる市 ペンセ湿原
中泊町 セツ滝外

募集人員 20名
参加費 2,000円(バス代・傷害保険料)
出発地 青森市沖館1丁目
(旧青森グリーン会館跡地) 7:10発

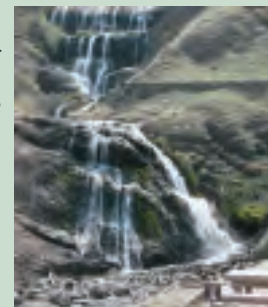
申込み方法 平成20年5月16日(金)8:30から電話での受付
を行い先着20名で締め切らせていただきます。
その他 昼食は持参してください

【参加申込みお問い合わせは】

津軽白神森林環境保全 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字米町25-2
ふれあいセンター 電話：0173-72-2931
URL：http://www.tugarushirakami-kokuyurin.jp/



ペンセ湿原に咲くニッコウキスゲ





「森林官一年目を終えて」

仙台森林管理署 丸森森林事務所

佐藤 友絵

丸森森林事務所は、宮城県の南端、丸森町にあり、管轄地は、阿武隈高地北部にあたります。標高は600m以下と低いですが、変化に富んだ様々な森林が見られます。東北局では珍しいマダケの竹林や、宮城県南部を北限とするウラジロガシの



モミ巨木の森

遺伝資源保存林、樹高が30mを超すモミ巨木の森、そして、ブナやモミなどの混交壮齢林もあります。

造林木でも、まれに変わったものが見られ、昨年、支障木調査をした箇所では、林齢13~15年で、直径が30cmに

達するスギとヒノキが見つかりました。署内の人には、何かの間違いで、と信じてもらえませんでした。伐採後に年輪を数えてみると、やはり15本程度。樹高も13mくらいありましたので、年間1m近く伸びたことになりました。



岩場や急峻な場所に点在する
松くい虫被害木

また、丸森は山火事や松くい虫被害の多いところでもあります。

平成11年2月、14年3月には大規模な火災があり、小さな火災は毎年のように起きています。昨年も、私が着任して最初の仕事は、前の晩に発生した山火事箇所の概況調査でした。幸い下草が焼けただけでしたが、山火事危険期(丸森では3~4月頃)に晴天が続くと、夜中にサイレンで起こされることが度々あり、落ち着いて寝ることができません。その点、今年は雨が多いので、助かりました。

一方、天候に関係なく毎年大きな被害をもたらすのが松くい虫です。被害木の調査と駆除の監督は、この事務所で最も大きな仕事の

一つです。しかしアカマツは、峰や岩壁など急峻な場所に生えているものが多いので、高所が苦手な私にとっては、最も恐ろしい仕事の一つでもあります。しかし、駆除をする業者の方は、その急斜面を、チェーンソーやシートを担いで登り、伐倒作業をする訳ですから、脱帽します。

調査では、被害木が尾根ごとに散在しているために、一つの山を何度も上り下りしなければなりません。山頂まで尾根を上りながら調査し、隣の尾根を下りながらまた調査する、という繰り返りで、とても体力が付きます。昨年は、およそ5000本、72箇所(小班)を調査しましたが、現場作業が長引いたために、今度は、書類作成が間に合わない、という事態になり、署の育成担当の職員・臨時職員に手伝ってもらうなど、多大な迷惑をかけてしまいました。今年はそのようなことの無いように、早めに調査を始めたいと思います。

このように、調査時には、被害木を一本残らず調べたと思っているのですが、数ヶ月後に駆除処理の監督へ行くと、茶色く変色したマツが沢山立っているのが見えます。切り残しかと近づいてみると、調査をした印が無く、調査後に変色したものであることが分かります。虫が入っても、すぐには変色しないものもあるようですが、被害木を目の前に、駆除をすることが出来ないのはとても歯痒く、こういう状況を無くするのが今後の課題です。

こうして、毎年同じ箇所を調査していると無力感も覚えますが、被害地の多くは県立自然公園に指定されている観光地であり、また、丸森の国有林は点在しているために、国有林側で駆除を怠れば、すぐに隣接する民有林へ被害が拡大してしまいます。何より、毎年駆除を続けていて、被害がほとんど無くなった



毎年の地道な調査・駆除により
被害拡大を防ぎます

地域もあるので、それを励みに、今後も地道に調査・駆除を続け、健康な山をつくらせて行きたいと思います。

我が署の 隠れた名所

津軽森林管理署

「くろくまの滝」



(見所の概要)

鱒ヶ沢町（鱒ヶ沢駅）から、赤石渓流沿いに白神山地世界遺産地域方面へ約19km進むと落差85m、幅15mの青森県内では最大級で「日本の滝百選」の一つに数えられている「くろくまの滝」があります。

威風堂々とした瀑流は訪れる人々をマイナスイオンでの癒しと安らぎで迎えてくれ、赤石川渓流を含め、春は萌える緑が生命の力強さの感動を与え、夏は水の涼風、秋の紅葉シーズンは木々が競うように感動的な美しさを見せてくれます。

当署ではくろくまの滝周辺で管理歩道の整備、山腹崩壊防止工事や堰堤表面を自然に優しい木製にし景観に配慮した施業を行っています。

是非お立ち寄りください。



交通アクセス

JR鱒ヶ沢駅から約19km車で約45分
くろくまの滝駐車場～くろくまの滝徒歩片道約
15分
くろくまの滝周回コース徒歩一周約2時間

お問い合わせ先

〒036-8101 青森県弘前市豊田2-2-4
電話番号：050-3160-5870 FAX：0172-27-0733